

# 長岡京左京三条四坊十三町跡

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 二〇〇六―一七

長岡京左京三条四坊十三町跡

2007 年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所







# 長岡京左京三条四坊十三町跡

2007 年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所



# 序 文

京都には数多くの有形無形の文化財が今も生き続けています。それら各々の歴史は長く多岐にわたり、京都の文化の重厚さを物語っています。こうした中、地中に埋もれた文化財（遺跡）は今は失われた京都の姿を浮かび上がらせてくれます。それは、平安京建設以来 1200 年以上にわたる都市の営みやその周りに広がる姿をも再現してくれます。一つ一つの発掘調査からわかってくる事実もさることながら、その積み重ねによってより広範囲な地域の動向も理解できることにつながります。

財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、こうした成果を現地説明会や写真展、考古資料館での展示、ホームページでの情報発信などを通じて広く公開することで市民の皆様へ京都の歴史像をより実態的に理解していただけるよう取り組んでいます。また、小学校などでの地域学習への成果の活用も、遺物の展示や体験授業を通じて実施しています。今後、さらに埋蔵文化財の発掘調査成果の活用をはかっていきたいと願っています。

研究所では、平成 13 年度より一つ一つの発掘調査について報告書を発刊し、その成果を公開しています。調査面積が十数平方メートルから、数千平方メートルにおよぶ大規模調査までありますが、こうした報告書の積み重ねによって各地域の歴史がより広く深く理解できることとなります。

このたび宅地造成工事に伴う長岡京跡の発掘調査成果を報告いたします。本報告書の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示たまわりますようお願い申し上げます。

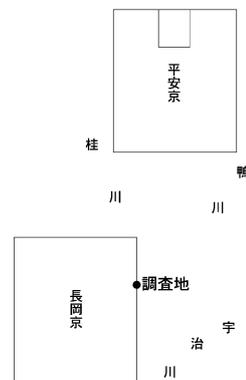
末尾ではありますが、当調査に際して御協力と御支援をたまわりました多くの関係者各位に厚くお礼と感謝を申し上げる次第です。

平成 19 年 1 月

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所  
所 長 川 上 貢

# 例 言

- |          |   |
|----------|---|
| 1 遺 跡 名  | 長岡京左京三条四坊十三町跡<br>長岡京左京第 517 次調査（7 ANWYT-1 地区） |
| 2 調査所在地  | 京都市伏見区久我森ノ宮町地内                                |
| 3 委 託 者  | 株式会社ライフプラン 代表取締役 中村隆良                         |
| 4 調査期間   | 2006 年 11 月 24 日～2006 年 12 月 8 日              |
| 5 調査面積   | 140 m <sup>2</sup>                            |
| 6 調査担当者  | 吉村正親  |
| 7 使用地図   | 京都市発行の都市計画基本図（縮尺 1：2,500）「久我」を参考にし、作成した。      |
| 8 使用測地系  | 世界測地系 平面直角座標系 VI（ただし、単位（m）を省略した）              |
| 9 使用標高   | T.P.：東京湾平均海面高度                                |
| 10 使用基準点 | 京都市が設置した京都市遺跡発掘調査基準点（一級基準点）を使用した。             |
| 11 使用土色名 | 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。             |
| 12 遺構番号  | 通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。                          |
| 13 遺物番号  | 通し番号を付し、写真番号も同一とした。                           |
| 14 掲載写真  | 村井伸也・幸明綾子・調査担当者                               |
| 15 基準点測量 | 宮原健吾  |
| 16 本書作成  | 吉村正親  |
| 17 編集・調整 | 中村 敦・児玉光世・近藤章子・山口 真                           |



0 2 4km

(調査地点図)

# 目 次

1. 調査経過	1
2. 周辺部の調査	1
3. 遺 構	2
(1) 基本層序	2
(2) 遺構	2
4. 遺 物	7
5. ま と め	8

# 図 版 目 次

図版1 遺構	1 A トレンチ全景 (東から)
	2 B トレンチ全景 (東から)

# 挿 図 目 次

図1 調査位置図 (1:5,000)	1
図2 調査区配置図 (1:2,000)	2
図3 調査前全景	2
図4 遺構平面図 (1:100)	3
図5 調査区断面図 (1:100)	4
図6 出土遺物拓影・実測図 (1:4)	7
図7 溝9出土須恵器壺	7
図8 遺構変遷図 (1:200)	8

# 表 目 次

表1 遺構概要表	5
表2 遺物概要表	7



# 長岡京左京三条四坊十三町跡

## 1. 調査経過

京都市伏見区久我森ノ宮町において宅地造成工事が計画された。当地は長岡京左京三条の東京極大路付近にあたり、敷地内に東京極大路と三条条間南小路の交差点が推定された。そこで、京都市文化市民局文化財保護課が試掘調査を実施した結果、南北方向の溝が確認された。そのために工事で遺構が破壊される部分について発掘調査を実施することとなり、財団法人京都市埋蔵文化財研究所が担当した。

調査は敷地の南側、指導を受けた位置にAトレンチと東に10 m離れたBトレンチを設けて実施した。調査は試掘調査で検出した溝が、長岡京の条坊に関する遺構であるか否かを確認することを目的とし実施した。

## 2. 周辺部の調査

調査区の周辺では、昭和55年に調査区の南側にある森ノ宮第二児童公園周辺において発掘調査(図1)を実施しており、古墳時代後期の溝3条、長岡京期の井戸2基、東西溝2条、土壇1基、さらに平安時代以降の溝10数条と河川の堆積層を確認している。

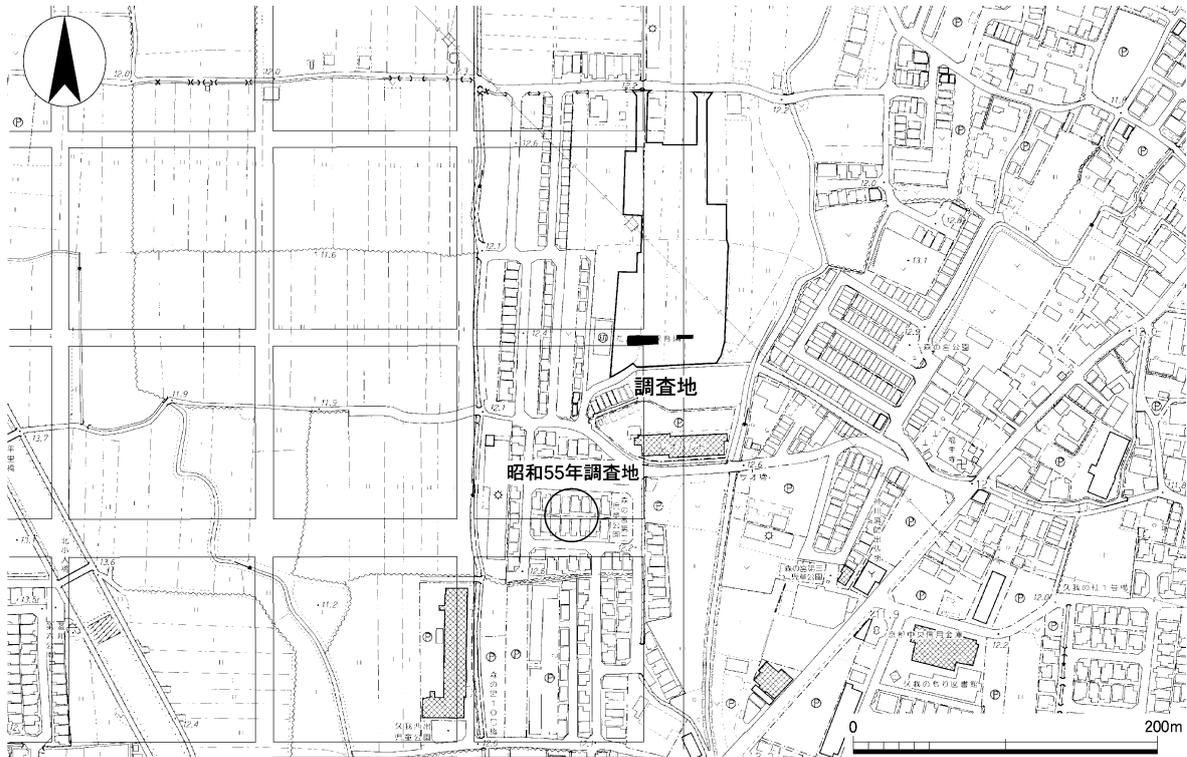


図1 調査位置図(1:5,000)

### 3. 遺 構

#### (1) 基本層序

当地は、宅地造成以前には水田であった。調査部分の基本層序は、まず宅地造成の盛土（図5一層1）が30 cmあり、この下にそれ以前の水田耕作土である暗青灰色泥土層（層2）が厚さ20～30 cmあった。以下では、Aトレンチ中央部の畦（層9・30）とそれを踏襲する溝（層4）を境に、東西で若干異なる。東側には、にぶい黄褐色泥砂層（層3）が調査区の東側を中心に20～

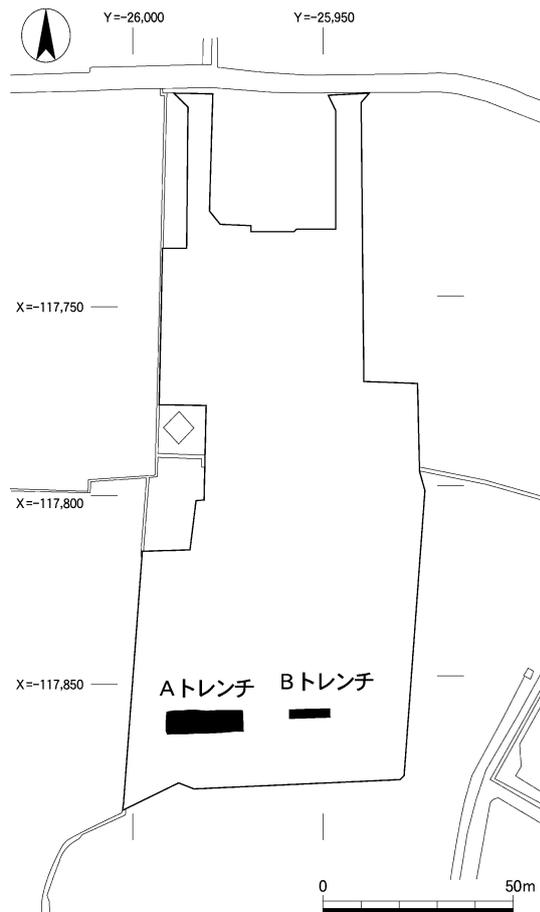


図2 調査区配置図（1：2,000）

30 cm、マンガンの沈着の見られる灰色泥土層（層5）が20 cm前後、灰白色泥土層（層6）が15～20 cm、灰オリーブ色泥土層（層8）が20～30 cm、以下、淡黄色泥土層の地山（層27）に至る。一方、西側では灰オリーブ色泥土層（層8）の上に灰色泥土層（層7）が10 cm前後堆積しており、さらに地山の直上にはマンガンの沈着が非常に多い淡黄色泥土層（層10）が10～15 cm前後堆積している。

今回検出した遺構は、全て地山である淡黄色泥土層の上面で検出した。

#### (2) 遺構

今回の調査においては、長岡京の条坊に関する遺構の確認に重点を置いたため、調査区を東京極大路と三条条間南小路の交差点付近にAトレンチ（6 m×20 m）、東京極大路東側溝部分にBトレンチ（2 m×10 m）を設け、調査を実施した。その結果、以下の18基の遺構を確認した。



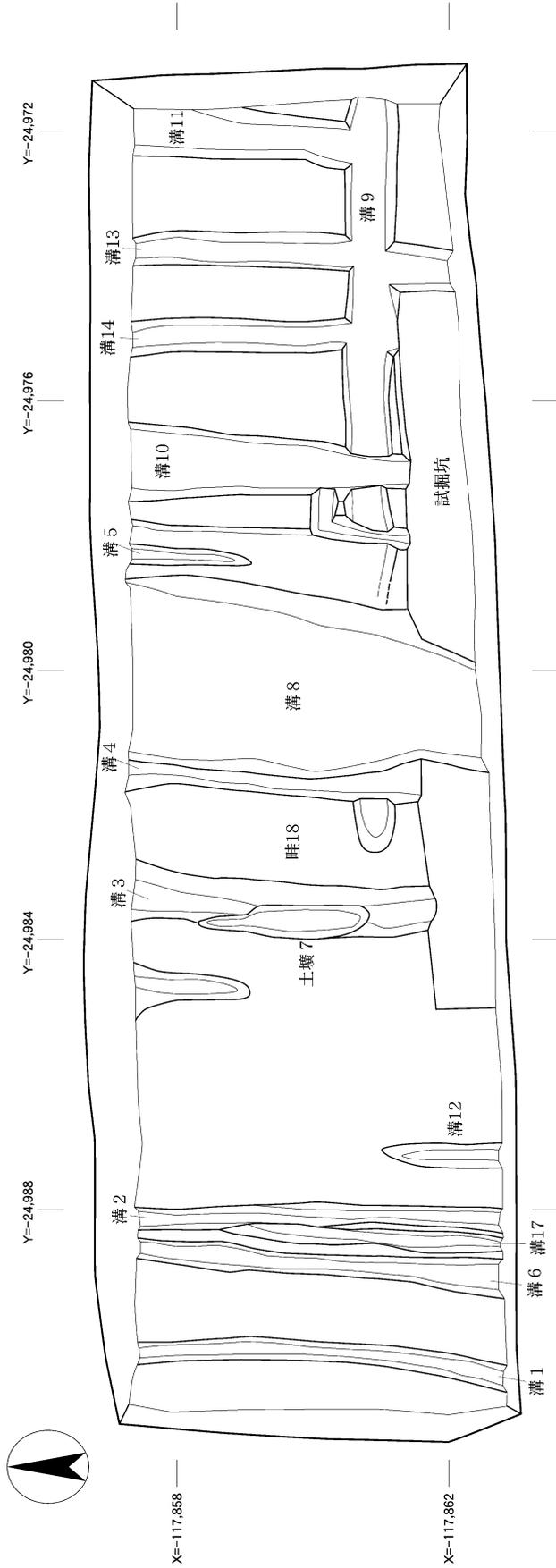
図3 調査前全景

##### 1) Aトレンチの遺構

溝1 調査区西側で検出した幅0.3 mの南北方向の溝である。埋土は明緑灰色泥土で、遺物は出土しなかった。

溝2 調査区西側で検出した幅0.3～0.4 mの南北方向の溝である。埋土は明緑灰色泥土で、

Aトレンチ



Bトレンチ

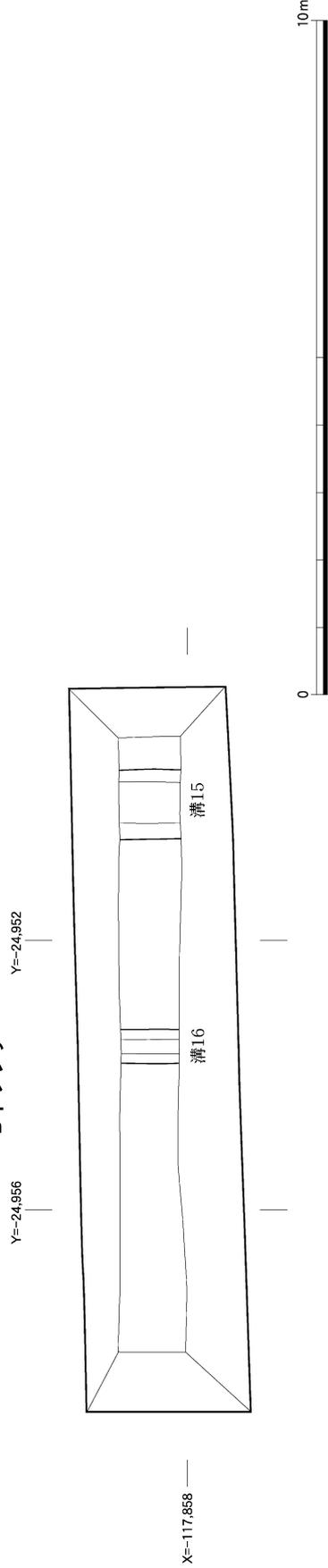
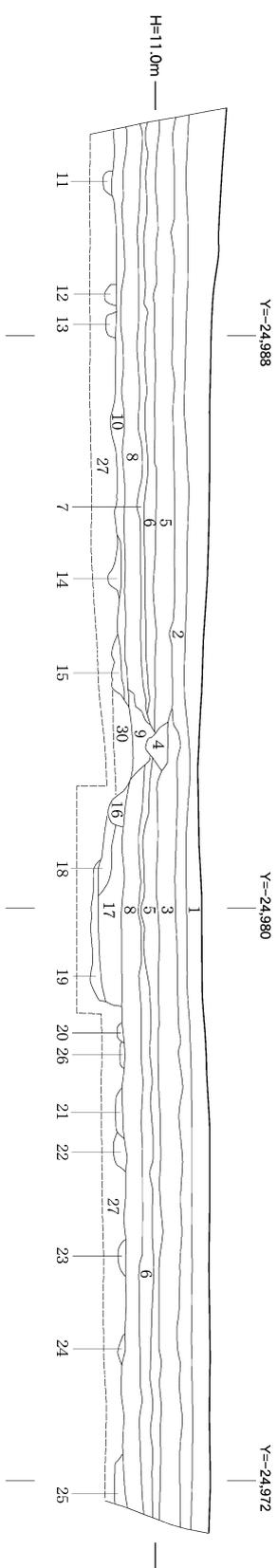
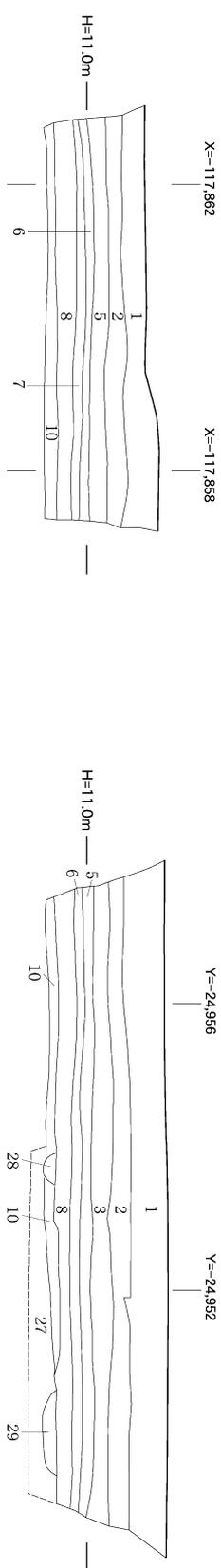


図4 遺構平面図 (1 : 100)

アトレンチ北壁



アトレンチ西壁



Ｂトレンチ北壁

- |  |   |  |
|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>1 盛土</li> <li>2 5PB4/1 暗青灰色泥土 (水田耕作土)</li> <li>3 10YR6/4 に近い黄褐色泥砂</li> <li>4 7.5GY7/1 明緑灰色泥砂 礫混</li> <li>5 10YR6/1 灰色泥土、マンガン多</li> <li>6 7.5Y7/1 灰白色泥土</li> <li>7 7.5Y6/1 灰色泥土</li> <li>8 5Y6/2 灰オリーブ色泥土</li> <li>9 2.5GY8/1 灰白色砂泥 (畦)</li> <li>10 5Y8/3 淡黄色泥土、マンガン多</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>11 10GY7/1 明緑灰色泥土 (溝1)</li> <li>12 5GY7/1 明オリーブ灰色泥土 (溝6)</li> <li>13 7.5GY7/1 明緑灰色泥土 (溝2)</li> <li>14 5GY7/1 明緑灰色泥土</li> <li>15 10Y8/1 灰白色泥土 (溝3)</li> <li>16 10Y7/1 灰白色泥土 (溝4)</li> <li>17 5Y6/2 灰オリーブ色泥土</li> <li>18 5GY7/1 明オリーブ灰色泥土 (溝8)</li> <li>19 10Y7/1 灰白色シルト</li> <li>20 10Y6/1 灰色泥砂 (溝5)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>21 10Y5/2 オリーブ灰色泥土 (溝10)</li> <li>22 5GY7/1 明オリーブ灰色泥土 (溝10)</li> <li>23 7.5Y7/2 灰白色泥土 (溝14)</li> <li>24 2.5GY7/1 明オリーブ灰色泥土 (溝13)</li> <li>25 7.5Y7/1 灰白色泥土 (溝11)</li> <li>26 5Y7/3 浅黄色泥砂</li> <li>27 5Y8/3 淡黄色泥土、マンガン多 (地山)</li> <li>28 10Y6/1 灰白色泥土 (溝16)</li> <li>29 10Y5/2 オリーブ灰色泥土 (溝15)</li> <li>30 5Y3/3 浅黄色泥土 (畦18)</li> </ul> |
|--|---|--|



図5 調査区断面図 (1:100)

遺物は出土しなかった。

溝3 調査区中央やや西寄りで検出した幅 0.7 mの南北方向の溝である。埋土は灰白色泥土で、平安時代の須恵器甕、室町時代の瓦器椀・白磁皿・土師器皿の破片が出土している。出土遺物から室町時代（15世紀頃）の溝であると考えられる。

溝4 調査区中央部で検出した幅 0.6 mの南北方向の溝である。埋土は灰白色泥土で、瓦器および土師器皿の破片が出土している。室町時代（15世紀中頃）の溝である。

溝5 調査区中央やや東寄りで検出した幅 0.4 mの南北方向の溝である。調査区の北から延び、中央部で消滅する。埋土は灰色泥砂で、平安時代後期の玉縁の白磁椀や瓦器片と共に室町時代（15世紀）の土師器皿が出土している。

溝6 調査区西部で検出した幅 0.3～0.6 mの南北方向の溝である。埋土は明オリーブ灰色泥土で、鎌倉時代（13世紀後半）の須恵器片や瓦器片が出土した。

土壌7 調査区中央西寄り、溝3の下で検出した土壌である。幅 0.5 m、長さ 2.5 mで南北に長い。埋土は灰白色泥土で、中世の土師器皿と平安時代後期の丸瓦片が出土している。

溝8 調査区中央部で検出した幅が 2.4～2.8 mとやや規模の大きな南北方向の溝である。埋土は灰オリーブ色泥土で、マンガン分が多く、部分的にシルト層も堆積している。上層から暗文の少ない鎌倉時代（13世紀後半）の瓦器片が出土している。この溝は畦18に伴うもので、畦の東側を画する溝4の前身となるものと考えられる。

溝9 調査区南東部で検出した幅 0.7 mの東西方向の溝である。調査区東側から続き、中央部で途切れる。埋土は灰白色泥土で、上層から鎌倉時代（13世紀）の瓦器片に混じって平安時代前期（9世紀）の須恵器甕片が出土している。この溝は溝4・8・10・14に削平され、溝11・13と合流する。

溝10 調査区東寄りで検出した南北方向の溝である。溝幅は北で 1.1 m、南で 0.5 mあって、北側には時期の近い溝が重複しているとみられる。埋土はオリーブ灰色泥土で、平安時代後期のものとみられる布目瓦片が出土している。

溝11 トレンチの東端で検出した幅 0.6 mの南北方向の溝である。南端は溝9の合流する。埋土は灰白色泥土で、中世の常滑焼の甕片と土師器小片が出土している。

溝12 調査区南西部で検出した幅 0.3 mの南北方向の溝である。調査区中央部から始まり南へ続く。埋土は明オリーブ灰色泥土で、時期不明の須恵器片と古墳時代の土師器高杯片が入っていた。

溝13 調査区東部で検出した幅 0.5 mの南北方向の溝である。調査区南部で溝9と合流し、さ

表1 遺構概要表

時代	遺構	備考
鎌倉・室町時代	溝1～6・8～14・17、土壌7、畦18	
時期不明	溝15・16	

らに南へ続く。埋土は明オリーブ灰色泥土で、中世の須恵器・土師器・瓦器片が出土している。

溝 14 調査区東部で検出した幅 0.5 m の南北方向の溝である。埋土は灰白色泥土で、遺物は出土しなかった。

溝 17 調査区西部で検出した幅 0.3 m の南北方向の溝である。埋土は明緑灰色泥土である。溝 2 に削平されている。

畦 18 地山を成形して南北方向の畦としたものである。幅 1.5 m、高さ 0.3 m 前後である。前述した溝 3・4 は、この畦の両裾にあり、これに伴うものと考えられる。

## 2) B トレンチの遺構

南北方向の溝 2 条を検出したが、いずれも遺物を伴わないので時代を確定する事はできなかった。

溝 15 調査区東部で検出した幅 1.2 m の南北方向の溝である。埋土はオリーブ灰色泥土である。

溝 16 調査区中央部で検出した幅 0.2 m の南北方向の溝である。埋土は灰色泥土ある。

## 4. 遺 物

遺物は整理箱で1箱出土しているのみである。そのほとんどが地山面で検出した小溝群とその上を覆う包含層から出土した土器類で、瓦類も少量認められる。いずれも小片である。時期的には長岡京期から中世（鎌倉・室町時代）のものまでである。

長岡京期の遺物としては、須恵器の壺G（1）が溝9の上層から出土している。これは、頸部から上を欠き、体部以下は完存している。体部にはロクロ目をよく残し、底部裏面には糸切り痕を残している。

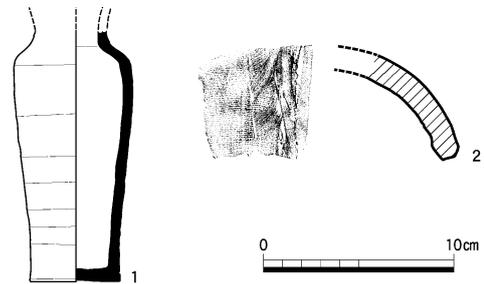


図6 出土遺物拓影・実測図（1：4）

平安時代の遺物としては、須恵器甕、輸入磁器（白磁碗）、瓦が出土している。このうち丸瓦（2）は土壙7から出土したもので、平安時代後期のものと考えられる。須恵質で凸面はナデ、凹面は細かい布目がある。側面の角は面取りを施している。

鎌倉・室町時代の遺物は、土師器皿、須恵器鉢、瓦器碗・鍋、輸入磁器（青磁・白磁碗）などがある。

この他に、古墳時代の土師器らしきものもあるが判然としない。



図7 溝9出土須恵器壺

表2 遺物概要表

時 代	内 容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
長岡京期	須恵器		須恵器1点		
平安時代	須恵器、輸入磁器、瓦		瓦1点		
鎌倉・室町時代	土師器、須恵器、瓦器、焼締陶器、輸入磁器				
合 計		2箱	2点（1箱）	1箱	0箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より1箱多くなっている。

## 5. まとめ

今回の調査は、当地が長岡京の東京極大路と三条条間南小路の交差点に推定されることから、条坊関係の遺構の検出が期待された。調査では東西および南北方向の小溝群を検出したが、結果的には全て中世期に成立したものであると考えられる。そしてその性格も耕作に伴うものとみられる。

検出した小溝群については、重複関係から大きく3時期に分けることができる。まずⅠ期は、東西方向の溝9に溝11や溝13が流れ込んだ時で、出土遺物から鎌倉時代前期（13世紀前半）を想定できる。Ⅱ期はAトレンチの中央にやや規模の大きな溝8が掘られ、その西側に畦が造られた時期である。出土遺物から鎌倉時代後期（13世紀後半）と考えられる。Ⅲ期はⅡ期の溝8が埋まり、残っていた畦の両側に溝3・溝4が掘られた時期である。出土遺物から室町時代（15世紀代）と考える。このAトレンチ中央で確認した畦の位置は、これ以後も畦として継続されたり、あるいは溝となったりしたことが調査区の断面観察によって読みとれる。この地区の重要な土地境になっていたものと考えられる。

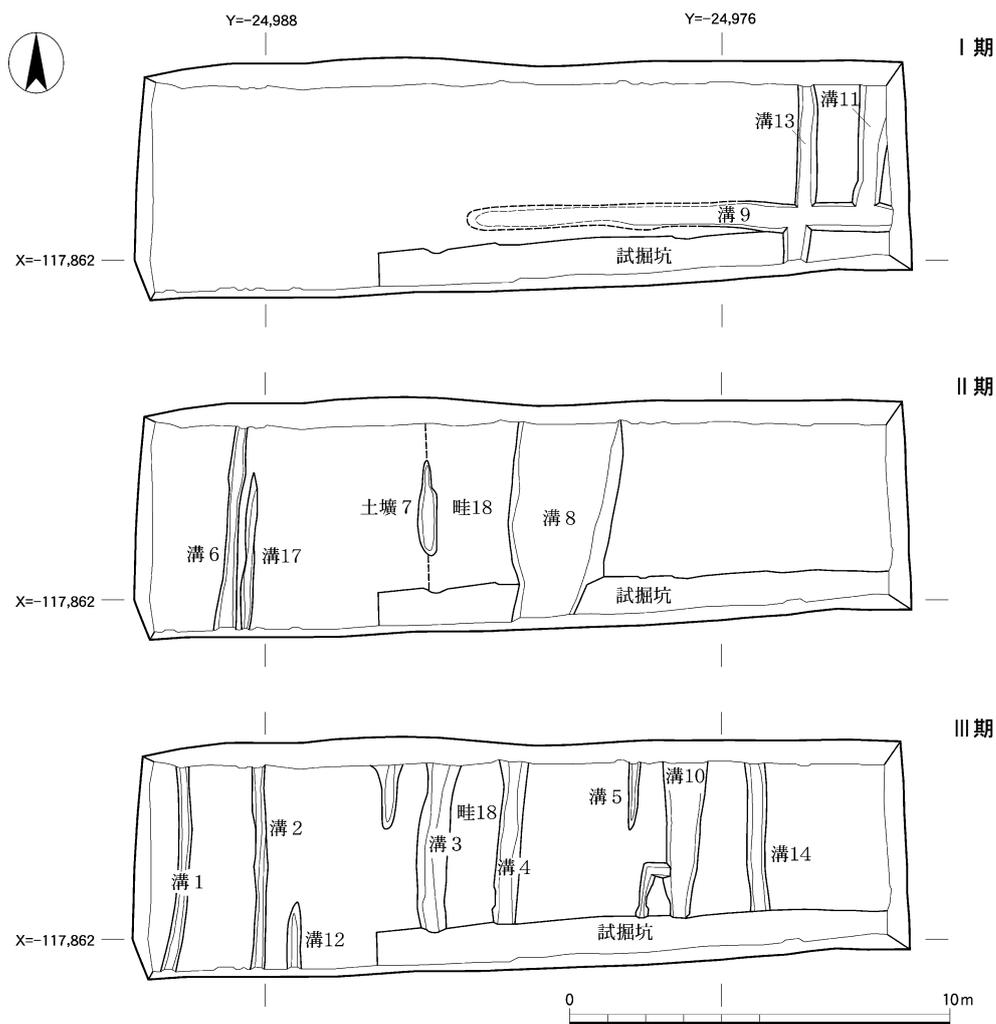


図8 遺構変遷図 (1 : 200)

# 版 图



# 報 告 書 抄 録

ふりがな	ながおかきょうさきょうさんじょうしぼうじゅうさんちょうあと							
書名	長岡京左京三条四坊十三町跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2006-17							
編著者名	吉村正親							
編集機関	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2007年1月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ながおかきょうさきょう 長岡京左京 さんじょうしぼう 三条四坊 じゅうさんちょうあと 十三町跡	きょうとしふしみく 京都市伏見区 こがもりのみやちょう 久我森ノ宮町 ちない 地内	26100		34度 56分 14秒	135度 43分 35秒	2006年11月 24日～2006 年12月8日	140m <sup>2</sup>	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
長岡京左京 三条四坊 十三町跡	都城跡	長岡京期		須恵器				
		平安時代		須恵器、輸入磁器、瓦				
		鎌倉・ 室町時代	溝、土壇、畦	土師器、須恵器、瓦器、 焼締陶器、輸入磁器				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2006-17  
長岡京左京三条四坊十三町跡

発行日 2007年1月31日

編集 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所  
発行

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265 番地の 1

〒 602-8435 TEL 075-415-0521

<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町 298 番地

〒 604-0093 TEL 075-256-0961